

# 令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

## ワークショップ実施計画書

|       |            |
|-------|------------|
| 制作団体名 | 一般社団法人一糸座  |
| 公演団体名 | 糸あやつり人形一糸座 |

| 内容  |
|---|
| <p>1) 日本の伝統的糸あやつり人形の構造・歴史を学びます。<br/>(人形を遣いながら分かりやすく解説します)</p> <p>2) 古典のセリフを全員で言う。腹の底から声を出すことで伝統芸能の発声を体験します。</p> <p>3) 人形を遣う基本となる足踏み、歩くという稽古を交代で行います。<br/>日本に伝わる、糸で操る人形の複雑な仕組みを知ることができます。</p> <p>4) 公演演目「東海道中膝栗毛」に参加するための稽古を行います。<br/>本番では4名に出演してもらいます。<br/>実際に人形を遣ってみて、本番への参加意欲を持ってもらえるよう、体験してもらいます。</p> <p>■新型コロナウイルス感染による、令和2年度/ワークショップ変更点<br/>通常は、全校生徒全員に参加してもらい、本番には4名の生徒さんに出演してもらいますが、新型コロナウイルス感染予防のため、今年度は、体験のみの少人数による実施も可能です。<br/>※4名～10数名～1クラス単位 で実施。<br/>体験を中心としたワークショップの開催を公演日の昼休みなどを利用して実施致します。</p> <p>※出演希望の開催校とは、個別に日程調整を行い、本公演前にワークショップを実施します。<br/>(コロナウィルスが収束している場合)</p> |

| タイムスケジュール (標準) |       |       |       |
|----------------|-------|-------|-------|
| 9:30           | 10:30 | 12:00 | 13:00 |
| 学校到着           | 生徒入場  | ws 終了 | 退出    |
| 準備開始           | ws 開始 |       |       |

| 派遣者数      |
|-----------|
| 人形遣い・・・6名 |

| 学校における事前指導  |
|---|
| 古典のセリフ（東海道中膝栗毛）を、学校にお送りしますので、生徒の皆さんに、良く読んでいただくようご指導お願い致します。 |

令和2年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書

|       |            |
|-------|------------|
| 制作団体名 | 一般社団法人一糸座  |
| 公演団体名 | 糸あやつり人形一糸座 |

| 演目   |
|--|
| ■橋弁慶   |
| ■伊達娘恋緋鹿子—八百屋お七火の見櫓の場—                                      |
| ■東海道中膝栗毛（赤坂並木から卵塔場）<br>原作：十返舎一九 監修：結城一糸 脚色（生徒出演用）：結城一糸     |
| ◇生徒の皆さんに内容をより分かりやすく、古典に親しんで頂くため、ナビゲーターが、舞台袖で解説を行いながら上演します。 |

| 派遣者数     |
|----------|
| ○出演者 11名 |
| ○スタッフ 6名 |
| 計 17名    |

| タイムスケジュール（標準） |             |       |       |             |    |       |
|---------------|-------------|-------|-------|-------------|----|-------|
| 8:30          | 11:20~12:00 | 12:00 | 13:00 | 13:30~15:00 |    | 17:00 |
| 学校到着          | 出演生徒と       | 昼休憩   | 生徒入場  | 開演~終了       | 撤去 | 退出    |
| 準備開始          | 稽古          |       |       | (内休憩10分)    |    |       |

| 実施校への協力依頼人員   |
|---|
| ピアノを移動する必要がある場合、お手伝い頂くかもしれません。<br>他は、特にご協力は必要ありません。 |

## 演目解説

◆橋弁慶・・・牛若丸は、京都五条大橋で毎夜通行人に腕試しを挑み、家来にすべき勇士を探しています。一方、比叡山の武蔵坊弁慶は、五条大橋で通行人を悩ます者の噂を聞き、これを従えようと、五条大橋にやってきます。そこで初めて弁慶と牛若丸は出会います。牛若丸が腕試しに弁慶の大薙刀の柄を蹴り上げると、怒った弁慶は薙刀を振りかざして切りかかりますが、牛若丸はヒラリヒラリと橋の欄干を飛び回り、とうとう打ち負かしてしまいます。弁慶はその若者が牛若丸と聞いて降参し、主従の契りを結びます。

◆伊達娘恋緋鹿子・・・お七のいいなづけの吉三郎は主人が刀を盗まれてしまい、それを取り戻さないと切腹しなければならない。吉三郎を助けるため、お七は盗まれた刀を見つけ、その刀を吉三郎に届けようとするが木戸が閉まっていて届けることができない。お七は火事と偽って火の見櫓の太鼓を打ち、木戸を開けさせ刀を届けようとする。八百屋お七の名場面をご覧ください。(江戸時代は夜には町々の木戸が閉められ通行ができなくなっていました)

◆東海道中膝栗毛・・・弥次郎兵衛と喜多八は、ヒョンな事から江戸を飛び出し、上方に向けて呑気な旅を続けている。そしてここは赤坂の宿はずれの並木道。日も暮れてあたりが薄暗くなり、二人は道を間違えて卵塔場(墓場)に迷い込んでしまう。臆病な二人は、そこにやって来た子どもを一目小僧と間違え殴ってしまうが、その子は酒を買いに行った子どもだったので大きな声で泣き出してしまう。その声を聞きつけたおじいさんがやって来て、弥次郎兵衛の胸ぐらをつかみ、何故孫を殴ったと問い詰める。弥次郎兵衛、喜多八の道中記を、軽妙な江戸前のセリフと浄瑠璃でお楽しみ頂きます。

## 児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

4名の出演希望者に、「弥次喜多道中記」の演目の中で、村人たちの人形を遣って共演してもらいます。村人のセリフも、生徒の皆さんにしゃべってもらい、日本独特の文化に親しんで頂きます。

人形は、舞台上で使用する人形を少し軽めにし、小学生でも人形操作がやりやすいように工夫します。

## 児童生徒とのふれあい

人形を近くで観たいとか、触ってみたいという生徒さんには、公演後時間の許す限り、舞台下で、人形に触れる時間を取りたいと考えています。  
体育館からの退出の際、出口付近で人形たちが生徒さんを見送ります。